

資料 1

令和 5 年 11 月 14 日

有限会社 津内口設計 様

七戸町新庁舎建設検討委員会事務局（財政課）

令和 5 年 10 月 24 日開催の第 2 回七戸町新庁舎建設検討委員会における
質疑事項について

このことについて、当委員会において以下のとおり質疑事項等がありました。
質疑事項については、H24 及び H28 に貴社が履行した業務が関係していることから
お忙しいところ申し訳ありませんが、回答いただきますようお願い申し上げます。

◎七戸町役場本庁舎及び七戸庁舎の耐震診断業務及び躯体調査業務に関わる事項

- ①H24 実施の耐震診断業務においてコンクリートの圧縮試験のため 74 mmのコアを
抜き取っております。
普通は 100 mmのコアを抜くと思われませんが、なぜ 74 mmだったのでしょうか？
理由はありますか？

壁の厚さから判断したものと思われま

- ②コンクリートコアを採取したら公的試験機関に出すのが原則なはずだが、報告書
を見ても公的試験機関に依頼した文書は見当たりませんでした。
公的試験機関に出していないのであれば、なぜ依頼しなかったのでしょうか？
出さなくても良い理由があるのでしょうか？

試験は、八戸工大で行っております。

(財)青森県工業技術教育振興会の印が押されております。

- ③本庁舎のコンクリート設計基準強度が推定値で 18 ニュートンの数値を出していますが根拠はありますか？

両庁舎とも昭和 40 年以降に建てられており、七戸庁舎は明らかに 21 ニュートンと記載されているので設計図書があったと思われます。役場の関係なので、本庁舎もそんなに違いがあるわけでもないと考えれば本庁舎も 21 ニュートンなのではないでしょうか？

本庁舎は、設計基準強度が不明のため耐震診断基準の資料より設計基準強度 180kg/cm² といたしました。

- ④コンクリートの圧縮試験の測定値は、平均値を求めて診断すれば良いと思われるのですが、標準偏差を出して、その値の 1/2 を各試験値から引いています。それもマイナス側に引いています。このことから出てきた強度よりも必ず低い強度で診断していることになりませんが、この算出方法で正しいのでしょうか？

圧縮強度の算定は耐震診断基準にならって「平均値-標準偏差/2」としております。

- ⑤構造耐震判定指標について、耐震診断の資料を見ると「0.9」となっています。一般的にこのような庁舎であれば「0.6」を使うのが原則ではないかと思いますが「0.9」にした根拠を教えてください。

業務打ち合わせにおいて、庁舎を災害時緊急拠点施設としたことにより、構造体 1 類となり、用途係数 1.5 としております。よって I_s 値は、 $0.6 \times 1.5 = 0.9$ で設定しました。

- ⑥H28 実施の躯体調査業務の七戸庁舎の調査結果で、「以上より、供用限界期間を 100 年とした場合、築後 43 年経過していることから、躯体の推定耐用年数は約 63 年と推定される。」と記載されております。単純に計算すると、100 年 - 43 年 = 57 年となると思われますが、これは引き算が間違っているのでしょうか？それとも何か違う考え方があるのでしょうか？

間違っておりました。57 年が正しいです。